関門海峡・壇之浦合戦ゆかりの地

こぼれ話 海豚(イルカ)
壇之浦の戦いの最中、関門海峡にイルカの大群が現れる。安倍晴延という小博士（陰陽師）に尋ねれば、「イルカが源氏の舟の下を通れば源氏の敗け、反対ならば平家」と占った。イルカは平家の舟の下をくぐったという。

こぼれ話 平家塚
「平家塚」は平家落人の墓と伝えられているもので古い五輪塔6基のほかの墓石がある。また、ここは「平家やぶ」ともいわれ、かつては一歩でも入ると祟りがあるといわれていたが、現在は地元の方の手で供養されている。

こぼれ話 消えた宝刀
義経は海中に沈んだ剣を探すよう、海女の老松に命じた。海女が海に潜ると大蛇が現れ「この剣はもともと竜宮城の宝物。日本国には渡さない」とお腹に入れてしまった。その後も壇之浦には光り輝くものがあるとの噂が流れたという。

こぼれ話 五輪の塔
平安時代に創始され、多くが武士層によって造立。上から「空・風・火・水・地」を表し、宇宙の生成要素を説く仏教思想に基づいています。平家供養塔など小型の「一石五輪の塔」は西日本に多い。

こぼれ話 義経の八艘飛び
牛若丸として鞍馬山で過ごした義経は、天狗と共に修行したといわれるだけあって、壇之浦でも舟から舟へ飛び移った、八艘飛びは有名な話である。三種の神器を探すのに必死だった義経が敵を避けて飛び回っていたとの説もある。

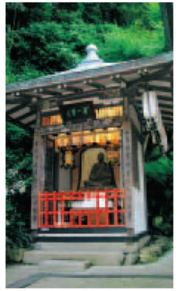
赤間神宮

あかまじんぐう
■下関市阿弥陀寺町4-1　□交通／赤間神宮前バス停

安徳天皇を祀る赤間神宮は、明治維新までは阿弥陀寺と称していた。有名な「耳なし芳一」の物語の舞台にもなっており、境内には平家一門の墓である七盛塚や、芳一像を安置した芳一堂があり、宝物殿には重要文化財に指定されている「長門本平家物語」をはじめとした源平ゆかりの書物や絵図などが多数陳列公開されている。また、毎年5月3日には安徳天皇を弔い平家一門を偲ぶ「先帝祭」が盛大に開催されるほか、夜はライトアップにより朱塗りの水天門が一層鮮やかに照らし出される。

安徳天皇阿弥陀寺陵。幼くして亡くなった安徳天皇のお墓で、中国地方唯一の御陵。引き上げられたご遺体は、現在御旅所と呼ばれる地にひとまず安置されていた。

平家一門の墓。壇之浦の合戦で滅んだ平氏の大将・平知盛をはじめ平家一門の武将を祀っており「七盛塚」と呼ばれている。


芳一堂。小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の怪談で有名な「耳なし芳一」。七盛塚入口にある芳一堂には、盲目の琵琶法師「耳なし芳一」の像が寄りそっている。

赤間神宮のシンボルともいえる「水天門」は竜宮をイメージして造られた。安徳天皇の玉体は水底に沈んだが、御霊は天上にあるとこころから こう呼ばれている。

「先帝祭」での豪華絢爛な衣装をまとった太夫の上臈道中は赤間神宮参拝でクライマックスを迎える。

平家の一杯水

へいけのいっぱいみず
■下関市前田町1-1-1　□交通／前田バス停徒歩4分

壇之浦の合戦で肩と足に矢を受け、海に落ちた一人の平家武将が、命がけで岸にたどり着き、この場所でわずかな湧き水を見つけた。喉がカラカラに乾いていたその武将は、痛む体をひきずって近づき、水を飲んだ。武将にとっては命がけの水であった。夢中になって二口目を口にしたところ、真水が塩水に変わっていたという伝説が残されており、現在は鳥居が建てられている。

大歳神社

おおとしじんじゃ
■下関市竹崎町1-13-10　□交通／JR下関駅徒歩3分

義経が壇之浦の合戦に際して戦勝祈願した神を祀る。義経は有明山（当時JR下関駅北口にあった）に富士の小松を植え、富士浅間の大歳神を祀り弓矢を神前に奉げた。のち、その弓矢を対岸の彦島にある平知盛の軍に射込んだために、驚いた平氏軍が壇之浦におびき出されたとされている。文治2年（1186）、山の麓の漁民がこの戦勝の神を祀り社に鎮めたといわれている。

義経は富士浅間の大神の神助を請い、富士の小松を植え、篝火を焚き、戦勝祈願した。

火の山

ひのやま
■下関市みもすそ川町7-14
□交通／火の山ロープウェイバス停徒歩30分

源平最後の合戦となった「壇之浦古戦場跡」をはじめ関門海峡を一望することができる絶好のビュースポット。瀬戸内海国立公園の一角に位置する標高268mの小高い山で、夜景は1000万ドルの価値があると言われるほどの絶景である。

季節限定でロープウェイが運行されます。（片道200円）

満珠・干珠

まんじゅ・かんじゅ（豊功神社 とよことじんじゃ）
■下関市長府宮崎町4-1（豊功神社）□交通／松原バス停徒歩8分

源氏軍は壇之浦の合戦に際してこの島の周辺に兵を集結させたとされる。義経は壇之浦が水戦の初戦であり、水戦が苦手な東国の兵を率いていた。しかも、敵地で地理や水路が不案内であった。長府串崎は平氏が陣を敷いた田野浦のちょうど対岸で、その地の船頭は名を得た屈強の者であった。義経は串崎の漁師たちから関門海峡の潮流の知識を得て、串崎船12隻を徴発し、自らこれに乗り込んだ。

豊功神社から望む満珠・干珠。満珠樹林・干珠樹林ともに天然記念物の美しい島だ。

海峡ゆめタワー

かいきょうゆめタワー
■下関市豊前田町3-3-1　□交通／JR下関駅徒歩7分

「海峡ゆめタワー」の展望室は、日本有数の高さ（高さ143m）を誇り、関門海峡はもちろん、対岸の九州や日本海側が一望可能。特に厳流島や壇之浦古戦場の絶好のビューポイントです。「恋人の聖地」に認定され、「縁結び神社」や「恋みくじ」などが人気。また、夜はバリエーションに富んだライトアップも必見です。
営業時間／9:30～21:30（最終入場21:00）
入場料／大人600円、小人300円

海響館

かいきょうかん
■下関市あるかぽーと6-1　□交通／唐戸バス停徒歩3分

くじらの姿をモチーフにした市立しものせき水族館「海響館」。ここにも源平壇之浦合戦の伝説が息づく生物が展示されている。「平家蟹」の甲の模様は怒った人の顔に見えることから、壇之浦の合戦で敗れた平家軍の怨霊が乗り移ったものとも言われている。イルカとアシカの共演や、スナメリのバブルリングも見られます。

海響館
平家蟹

みもすそ川公園

みもすそがわこうえん
■下関市みもすそ川町1番　□交通／御裳川（みもすそがわ）バス停前

寿永4年（1185）、源氏軍が大軍を率いて来襲、平氏軍はこれを壇之浦で迎え撃った。公園前の海は関門海峡の一番狭まったところで「早鞆の瀬戸」と言われ、潮の流れが速く、潮流の変化が激しい海の難所。ここで源平最後合戦となる壇之浦合戦が繰り広げられた。壇之浦古戦場跡を一望できるみもすそ川公園には、「今ぞ知る 身もすそ川の御ながれ 波の下にもみやこありとは」という二位尼辞世の歌碑、壇之浦古戦場の址碑など当時を偲ぶ石碑がある。

公園内で「歴史体感△紙芝居」開催中ほぼ1年を通じて毎日、武者姿の読み手が源平壇之浦合戦などを題材に紙芝居を行います。

公園内には一般公募のデザインから選ばれた源義経像（左）と平知盛像（右）が設置されている。義経像の前には、大河ドラマで義経役の滝沢秀明さんの手形も設置されている。

壇之浦合戦壁画・和布刈神社

だんのうらかっせんへきが・めかりじんじゃ
■門司区和布刈　□交通／めかり山荘バス停徒歩8分

和布刈公園内の第二展望台にある、高さ3m長さ44mの美しい有田焼の壁画。壇之浦合戦の模様が再現されており、義経、教経、二位の尼、安徳帝、建礼門院などが描かれている。和布刈神社は仲哀天皇9年（西暦200年）に創建。毎年旧暦元旦に行われる和布刈神事は有名。眼前は急潮渦巻く早鞆の瀬戸。高浜虚子はこの潮流を見“夏潮の今退く平家滅ぶ時も”と詠んだ。句碑は境内にある。

壁画は1,400枚の有田焼の陶板でできており、壇之浦合戦の様子を 迫力をもって語りかけている。

門司城跡。寿永3年（1184）平知盛は源氏との一戦に備えて古城山に門司城を築城しました。元和元年（1615）一国一城令で破却。

和布刈神社。新平家物語によると、合戦前夜、神宮橋魚孫による祝詞と神酒で戦勝を祈願し、平家一門の凱文を奉上したとある。

北九州市の姉妹都市、米国ノーフォーク市にちなんで名付けられたノーフォーク広場。関門海峡に面し、夕日が沈む時間はお薦め。

水天宮(海御前の碑)

すいてんぐう（あまこぜのひ）
■門司区大字柳　□交通／大規東口バス停徒歩5分

壇之浦の戦いで平教経の奥方（海御前）は敵将を切り捨てると安徳天皇の後を追い海に身を投げた。その遺体は大積の浜に漂着。里人は、浜の松の根元に手厚く葬り、水天宮として祀った。海御前はいつしか河童の総帥になったと言われ境内には硯石でできた海御前の碑や河童の像がある。

水天宮にある海御前の碑

かっぱの石像

甲宗八幡宮

こうそうはちまんぐう
■門司区旧門司　□交通／甲宗八幡宮バス停徒歩1分

貞観2年(860)清和天皇が創建。神功皇后が三韓を征した時に着用したと言われる甲が御神体。50年に1度公開され、次回の公開は平成20年。寿永4年(1185)源平の戦い後、範頼、義経兄弟は戦いで荒れた社殿を再建した。また、「平知盛の墓」と伝えられる石塔があり、昭和28年の大水害の時に筆立山から流れて来たそうだ。

平知盛の墓

平山観音院

ひらやまかんのんいん
■門司区大字伊川　□交通／伊川市営住宅バス停徒歩13分

壇之浦に敗れた平家残党が、一族を弔うため回向堂を建立したのが平山観音院の起こりといわれている。この寺の境内には、「お乳水」と言われる岩清水がある。
平山観音院の近く、伊川の貴船社には、安徳帝を偲んだと思われる幼帝、二位の尼、平宗盛の像が小さな祠に安置され、その姿は戸上神社の御神像とほぼ同じ。

平家の乳母が姫と乳に恵まれない子の為に祈りつつ回復した後湧き出た「お乳水」

貴船社の三座像（非公開）

柳の御所(御所神社)

やなぎのごしょ（ごしょじんじゃ）
■門司区大里　□交通／御所神社バス停徒歩1分

太宰府に落ちた平家は緒方三郎惟義の裏切りにあい、山鹿城（菅屋）を経て、大里に御所を定めた。時に寿永2年(1183)8月、去ったのは同年10月。境内には都を偲んだ平時忠、経正、忠度の歌碑三基があり、特に忠度の「都なる九重の内恋しくば柳の御所に立ち寄りて見よ」は御所の存在を明らかにしている。

この周辺には一族の邸もあったと伝えられている。

殿墓

とのばか
■門司区黒川　□交通／八木田バス停徒歩3分

黒川の八木田バス停の奥、竹林の中に整然と並んだ18基の五輪の塔は、「殿墓」と呼ばれている。寿永4年（1185）命を受けて宇佐八幡へ戦勝祈願に行った平休息は、その帰途平家の敗戦を知って山中へ潜んだ。追討がゆるんだところで、「八木田」と姓を変えて農業に従事、一方討死した一族の墓を集め、供養したのが殿墓である。

八木田という姓は、耕地に居を構え、八方に木を植え風を防いだところから。

風呂の井戸

ふろのいど
■門司区大里　□交通／競輪場前バス停徒歩2分

平家の一行がこの地に着いた時、里人は安徳天皇をはじめ一行の疲れを癒すため、この泉の水を風呂の用水にしたといわれ、現在も水をたたえている。

御所の南西の方位にあった泉の水「玉水」を汲んで安徳幼帝の湯浴みに供したもの。

海峡ドラマシップ

かいきょうどらましっぷ
■門司区西海岸　□交通／JR門司港駅徒歩5分　★お問い合せ／海峡ドラマシップ　TEL.093-331-6700

関門海峡の過去・現在を五感で感じられるミュージアム。海峡にまつわる歴史を再現した「海峡アトリウム」では、4階まで吹き抜けのシンボルゾーンで大積に伝わる海御前とかっぱの伝説をもとに創作した物語が音と光と映像で楽しめる。また、「海峡歴史回廊」では、歴史上印象的なシーンを人形アートでたどる歴史絵巻。壇之浦の合戦の場面はもちろん、源氏・平氏の群像や、安徳天皇と二位の尼、海に沈む建礼門院などをドラマチックに再現している。

「源氏・平氏の群像」左から平教経・平知盛・源義経。（川本喜八郎・制作）

二位の尼は八歳になる孫の安徳天皇を抱いて立ち上がり入水。（ホリ・ヒロシ・制作）

関門海峡の一大パノラマを望むようにして行む海峡ドラマシップの全景。